

私の夢 (30代男性)

URL: <https://youtu.be/gDX0o3-7N38>

今回は「私の夢 (30代男性)」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く (+20%) なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立てください。

■自己紹介と今の生活

私の名前は花山健太郎です。大阪で生まれました。今は東京で会社員をしています。
年齢は三十五歳です。妻と小学生のむすめがいます。三人で小さなアパートに住んでいますが、毎日楽しくくらしています。

仕事はIT関係の会社でしています。主にお客さんのパソコンの問題をなおす仕事です。朝は少し早く、夜も遅くなることがありますが、人の役に立てるのがうれしいです。ときどき難しい問題もありますが、自分で考えてうまくできたときは、とてもやりがいを感じます。

家では家族とすごす時間を大切にしています。一緒にテレビを見たり、休みの日に公園へ行ったりします。むすめとサッカーをするのが楽しみです。小さなことでも、家族の笑顔を見ると元気になります。

ただ、仕事と家庭のバランスをとるのは簡単ではありません。ときどき、仕事が忙しくて家族との時間が少なくなります。そのときは、少しさびしい気持ちになります。でも、家族が「がんばってね」と言ってくれるので、また前を向くことができます。

毎日にはあわただしいですが、たくさんの人にささえられて生きていると感じます。これからも仕事をしながら家族との時間を大事にし、少しずつ成長していきたいと思います。

■子どものころのあこがれ

子どものころ、私はサッカーが大好きでした。休み時間になると、友だちと校庭でボールをけて遊びました。雨の日でも体育館でサッカーをしていたほどです。そのころの夢は、プロのサッカー選手になることでした。テレビで日本代表の試合を見るたびに、「いつかあのピッチに立ちたい」と本気で思っていました。

サッカーが好きになったきっかけは、小学校の先生でした。その先生はとてもやさしく、放課後によく練習を教えてくださいました。先生は「努力すれば、夢に近づくよ」と言ってくださいました。その言葉は、子どもだった私の心に強くのこりました。学校の勉強よりも、サッカーの練習の方がずっと楽しく感じていました。

家では、父がいつも応援してくれました。母は「けがをしないようにね」と言って、おにぎりを作ってくださいました。週末には家族で試合を見にきてくれて、ゴールを決めたときは大きな声でよろこんでくださいました。私はそのたびに、「もっと上手になりたい」と思いました。

中学生になっても、サッカーへの思いは変わりませんでした。朝早く学校へ行って走り、夜遅くまで練習しました。つかれていても、ボールをけると元気が出ました。サッカーは私の生活の中心でした。

いま思えば、あのころの夢はただのあこがれではなく、「何かに全力で取り組む楽しさ」を教えてくださいました大切な時間だったと思います。

■大人になって気づいた現実

大人になって社会に出ると、思っていたよりも現実はきびしいことが多いと感じました。学生のころは、がんばればなんでもできると思っていましたが、仕事の世界では自分の力だけではどうにもならないことがたくさんあります。上司の考え、会社のルール、お客様の希望など、いろいろな人の意見の中で動かなければなりません。

最初のころは、理想と現実の違いにとまどう毎日でした。どんなに努力しても、結果が出ないこともありました。失敗すると自信をなくして、「自分には向いていないのかもしれない」と思ったこともあります。そんなとき、子どものころの夢を思い出すことがありましたが、「もう無理だろう」と心の中であきらめていました。

お金の問題も悩みのひとつでした。生活のためには働かなければなりません。家賃や食費など、毎月の支払いがあると、好きなことだけをして生きるのは難しいと感じました。自由に時間を使うこともできず、休みの日も仕事のことを考えてしまうことが多くなりました。

まわりの友人たちは、出世したり、結婚したりして、しっかりとした生活をしているように見えました。それを見て、うらやましいと思うこともありました。自分だけが取り残されているような気持ちになることもありました。

それでも、どこかで「このまま終わりがたくない」という気持ちがありました。夢はもう遠いものに見えましたが、心の中にはまだ小さな希望がありました。その希望が、これからの生き方を考えるきっかけになりました。

■ 立ち止まって考えた時間

ある日、仕事のことで大きな失敗をしました。お客さんとの約束を守れず、会社にも迷惑をかけてしまいました。そのとき、心がとても重くなり、家に帰っても気持ちが晴れませんでした。何をしても楽しく感じられず、「このままでいいのだろうか」と考えるようになりました。

夜遅くまで仕事をして、だれにも感謝されないと感じるがありました。朝、目がさめても体が動かず、仕事に行くのがこわいと思ったこともあります。努力しているのに、何も変わらない毎日に少しずつ自信をなくしていきました。

そんなとき、妻が「少し休んだら？」と言ってくれました。その一言で、涙が出ました。私はずっと、がまんすることが大切だと思っていました。でも、その言葉を聞いて、「休むことも必要なんだ」と気づきました。しばらくのあいだ、仕事を少なくして、家でゆっくり過ごしました。

休んでいる間、久しぶりにむすめと公園へ行きました。むすめの笑顔を見て、心が少しずつ軽くなりました。その日、家族の大切さを改めて感じました。友人にも話を聞いてもらい、自分の気持ちを言葉にすることで心が整理されました。

この時間があつたからこそ、自分がどんな生き方をしたいのかを考えるようになりました。立ち止まることはこわいことではなく、自分を見つめ直す大切な時間なのだと感じました。

■新しい夢を見つけるきっかけ

ある日、図書館で、たまたま一冊の本を手に取りました。その本には「人はいつからでも変われる」という言葉が書かれていました。読んでいくうちに、心の中で何かが動きました。「もう一度、何かを始めてもいいのかもしれない」と思ったのです。その本との出会いが、私の気持ちを前向きにしてくれました。

また、会社の同僚が新しいことに挑戦している姿を見たことも大きなきっかけになりました。彼は、仕事をしながら夜に専門学校へ通い、夢だった仕事に転職しました。その姿を見て、「年齢は関係ない」と感じました。

家に帰って昔のノートを開くと、子どものころに書いた夢が出てきました。そこには「サッカーに関わる仕事がしたい」と書かれていました。その文字を見たとき、胸があたたかくなりました。小さいころの自分は、本気で夢をかなえたいと思っていたのだと気づきました。

このとき、私は「過去の夢を思い出すこと」が新しい夢を見つける第一歩になるのだと感じました。

■小さな一歩をふみ出す勇気

新しい夢を思い出してから、私は少しずつ行動を始めました。最初はとても小さな一歩でした。仕事のあとに地域のサッカークラブを見学し、ボランティアとして手伝わせてもらいました。

子どもたちの前に立つと少し緊張しましたが、「やってみよう」という気持ちが強くありました。最初の日はうまく教えられず落ち込みましたが、それでも楽しかったことを覚えています。

何度か通ううちに、子どもたちの名前や性格を少しずつ覚えめました。ボールを追いかける姿を見て、自分がサッカーを好きになったころの気持ちを思い出しました。練習の最後に「ありがとうございました」と言われるたびに、心があたたかくなりました。失敗しても「次はこうしよう」と思えるようになり、少しずつ前向きな気持ちが戻ってきました。

うまくいかない日もありました。天気が悪くて練習が中止になったり、仕事で
行けなかったりすることもありました。でも、行動を続けることで、自分の中
で「夢がまた動き出している」と感じました。

この時期の私は、まだ不安も多かったですが、「行動すれば少しずつ変われる」
ということを実感しました。小さな一歩をふみ出すことは、未来へ進むための
大切な勇気だと気づきました。

■家族や仲間の支え

ボランティアを続けているうちに、家族や仲間の存在の大きさをあらためて感
じました。最初のころ、私は仕事とボランティアの両立がとても大変でした。
帰りが遅くなり、家のことができない日もありました。そんなとき、妻は「あ
なたが楽しそうでよかった」と笑ってくれました。その言葉に救われた気がし
ました。

むすめも応援してくれました。「パパ、今日はどんな練習したの？」と聞いて
くれる時間がうれしかったです。家族が私の挑戦を理解し、応援してくれるこ
とで、心の中に安心感が生まれました。家族の支えがあるからこそ、夢に向か
って続ける力が出てくるのだと思いました。

また、クラブの仲間たちの存在も大きな力になりました。最初は年下の人が多
く、少し気をつかっていましたが、みんなやさしく声をかけてくれました。
「失敗しても大丈夫ですよ」と言われたとき、気持ちが軽くなりました。仲間
と協力して練習を考えたり、子どもたちの成長を一緒に見守ったりする時間は、
とても楽しいものでした。

ひととのつながりが、夢を続けるための支えになることを知りました。ひとりでは
続けられなかったことも、誰かの応援や協力があることで前に進める。私は
この経験を通して、「夢は自分ひとりのものではない」と強く感じるようにな
りました。

■続けることの大切さ

夢に向かって進む中で、私は「続けること」の大切さを強く感じるようになりました。最初のころは気持ちが高ぶっていても、時間がたつと疲れたり、やる気が下がったりする日もありました。特に、仕事が忙しい時期は「今日は休もうかな」と思うこともありました。それでも、少しでも行動を続けるように心がけました。たとえ十五分でも、練習の計画を立てたり、子どもたちの成長記録を見返したりしました。

続けるために、私はいくつかの工夫をしました。ひとつは、目標を小さくすることです。「プロのように教える」ではなく、「今日は子どもたちを笑顔にする」と決めるだけで気持ちが軽くなりました。もうひとつは、完ぺきを求めすぎないことです。うまくいかない日があっても、それを失敗ではなく「次の練習」と考えるようにしました。

あきらめそうになったときは、最初のころの気持ちを思い出します。図書館で出会った本の言葉、初めて子どもたちの前に立った日の緊張とよろこび。それを思い出すことで、「またがんばろう」という気持ちが生まれます。

少しずつ続けていくうちに、自分の中に新しい習慣ができました。「やること」よりも「続けること」を大切にするようになり、それが毎日の自信になりました。私は今、「続けること」こそが夢に近づくいちばんの力だと感じています。

■夢に近づいて感じた変化

続ける日々の中で、私は自分の変化をはっきり感じるようになりました。昔の私は、失敗をこわがって行動できないことが多かったです。でも今は、失敗しても「次はどうすればいいか」と考えられるようになりました。人と自分をくらべることも少なくなり、自分のペースで進むことを大切にしています。

サッカーを教える活動が続ける中で、子どもたちから学ぶこともたくさんありました。転んでも立ち上がる姿を見て、「あきらめない気持ち」がどれほど強いかを感じました。子どもたちは夢に向かってまっすぐで、その姿が私を元気づけてくれます。ときには私の方が励まされているように感じることもあります。

また、まわりの人にも変化がありました。私が前向きに行動するようになってから、同僚や友人が「最近楽しそうだね」と声をかけてくれるようになりました。私の挑戦が、だれかの勇気や希望につながっているとしたら、とてもうれしいです。

私は今、「夢」という言葉について、前よりもよく考えるようになりました。夢は、ただの「やりたいこと」や「目標」ではないと思います。夢は、「どんな生き方をしたいか」という心の向きを教えてください。たとえ昔と違う夢を持っても、その中にある気持ちは変わりません。今の私は、自分の中にしっかりとした夢があります。それは、「自分らしく生きる」という新しい夢です。

■これからの希望とメッセージ

私は今、新しい夢に向かって歩きながら、これからの人生についてよく考えるようになりました。昔のように大きな夢ではありませんが、今の自分に合った形で「人の役に立つこと」を続けたいと思っています。サッカーを通して子どもたちに努力の大切さを伝え、だれかの成長を支えられる存在になりたいです。それが、私にとっての新しい目標です。

この活動が続ける中で、家族や仲間への感謝の気持ちも強くなりました。家族が応援してくれたからこそ、私はここまで来ることができました。仲間が支えてくれたから、あきらめずに続けることができました。人とのつながりがあるからこそ、夢は現実に近づいていくのだと思います。

これからは、自分の経験を通して、だれかの背中を押せるような人になりたいです。夢をあきらめていたころの自分のように、迷っている人がいたら、「今からでも遅くない」と伝えたいです。

夢は、年齢や環境に関係なく持てるものです。そして、その夢は形よりも「想い」が大切だと感じます。私はこれからも、できることを一つずつ積み重ねながら、家族と共に前へ進んでいきたいと思っています。未来にはまだ知らない景色がたくさんあります。その中で、笑顔で生きていけるように、これからも努力を続けていきます。

「私の夢（30代男性）」はいかがでしたか。
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

